

会津の本棚から



DRINK
good COFFEE
READ good
Books

荒田珈琲
新聞
VOL.84
2024.9.27(金)

新聞にたびたび登場するヨメ母が会津へ移住してから約15年。

自然に囲まれた暮らしを満喫してきましたが、豪雪地帯の山里での一人暮らしは何かと厳しいもので、今年の雪が降り出す前にこの広すぎる家から市街地へ移ってはどうかと相談していました。母はもとよりヨメや家族にとっても、父がいたころの思い出も詰まつた大切な本があつちます。でも、歳を重ねるとともに人生のターニングポイントは静かに、そして着実にやってくるものだと分かります。夏から断捨離を始めて早くも秋がやってきました。

家にたいした荷物はないけれど、本だけはたくさんあります。天井まである大きな本棚6つを整理して1つ分にしなければなりません。ボリュームに圧倒されつつ向き合つて目の前には棚板がゆがむほどの本・本・本の山!どこから手を付けたらよいのやら…。途方に暮れても進みませんし一冊ずつ吟味している時間もないでダッシュボードに

詰められるだけ詰めてバックオフへ持ち込むことにしました。

父の蔵書には絶版本や珍本、希少な書物の数々がほこりを被っていて、フリマアプリで欲しい方を募るとか神田の古書店街に行けばお宝があるかもね…と言しながら、もったいない気持ちを封印して仕分けします。利益を得るのが目的ではなく、何いろ、減らさなければならぬのです。



並んだ背表紙を見ていると、自分のレースはここにあると感じます。さきだつた絵本や枕元で母が読んでくれた物語など、店にあるのと同じ本ちらほら。キリがないのでほんの少しだすが、珈琲を飲みながら捲ってみたい本をもらつきました。読書の秋に、よかつたらお手に取ってご覧くださいね。

* ポケット詩集 / 田中和雄(編)

どのページを開いてもメッセージを投げかけてくる詩と出会えます。第一巻は「雨ニモマケズ」に始まり「自分の感受性くらい」で終わりますが、言葉ってすごい。長々と語らなくても胸に残り、刺さる詩たちが小さな本に詰まっています。

* 注文の多い料理店 / 宮沢賢治(著)

小ちの国語で出会つたお話は、童話集からの一編です。不思議でちょっと怖い、でも楽しく先が気になる山猫軒での真夏を大目にたり読み返すとまた面白く、ひと味違つて感じます。

本の山に埋もれたながら、このペーパーレス時代にあえて紙の本を手に取るのはやっぱいいな」と思った次第です。ページを捲る感触は、目を開じ描く風景は、読み後に残る余韻は、本ならではの味わい。心の糧になるものではないでしょうか。

「注文の多い料理店」の序文を宮沢賢治が書いています。「これらのちいさなものがたりの幾きれかが、よくおしまい、あなたのすきとあつたほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかゆかりません」すきとあつたほんとうのたべものとはまさしく本がくれる栄養ですね!

はたいて、猪苗代湖に白鳥が飛来するより先に、本棚も家もあっさり片付けられるのか!?さて。珈琲屋のヨメ、がんばりどころですよ~

(手伝い要員の店主にも感謝!)

他にも
いろいろ

- 風が吹くとき
- アンナの赤いオーバー
- 石垣漠漠とみつけた一冊の絵本
- ブンヤ、木からおりてこい
- などなど

10月のお休み

7(月)・8(火)・15(火)・21(月)・22(火)・28(月)